



霊の幸下之巻

於梅亭真行

一編乃たゞ先や後之花の書

天府

言多由時々山の阿けが

阿人

多念心乃候賣小系其婦

完来

人きん〜やむ祝と子乃中

午心

乃あ〜と本もさう〜歩月結露

人

ゆ〜〜人た〜〜杖の影さ

府

近きくもつゝ高き地は牛
 唯、おこしり不集の友
 朝鮮の矢乃根流々具是楳
 蓮子志何々く毎く 寄ぬ
 六月七麻の時日ハ暑くは
 若くは鏡ふくまに渡を忍人
 故今紙少ぬ急き乃 恋くも
 車よかりる 音に 幸に
 ありくは起すも月の西東
 府 心 人 東 人 府 心

彼乃とけふ布留るも人
 能く酒呑むも復をし
 隣く 執く 此の品
 多功也子賭碁一當れりれ
 大きく見ゆる 事如履臨
 入定ぬかす 在り如く
 干菓も乃 所 奈れり
 行勝もいつもを君と立高
 良女もいつも 恒々立の宿
 府 心 人 心 東 人 府 心

ありのこしを梓中へあると何れ
 西里とくあうよ 遠江灘 府
 籠志初とる物依とて喜ぶ
 牛玉の灰をかきめ 掌
 月十首稲おとしそ呼子鳥
 都紙余所よゆく娘の旅 府
 堀原の業胡堂乃 自研金
 古寺二軒 垣垂 踊 心
 中とくしそ風の船かまふ 府
 東 心 人

日は高申子今 午時の空
 伶人の樂を小並ふ花乃信
 潮し 花の黄蝶 白蝶 心
 東 人

万葉の轍をとあるる旅まら
 みまの膚しらくまの月 今
 新くともわ書はくも山まは
 出芳はるまはくま柳多深し 午心
 雪萬

人のすめぬ木毎さゆに 夾の雨 天府子
 かこもるもさむらや梅も春 不騫子
 おもてても魚の島と桃の島 凉水子
 くらもあつらひももや後結花 苑枝子
 陽春の汐も遊りて 磯辺山 登義子
 まるもや 藁花と連のふゆも春 竹奴
 さゆくの藤もさむらもあつらひ 木羽
 二月のおもてもさむらもあつらひ 沙羅
 まるもやさむらもあつらひ 月守

離や花もさむらもあつらひ 社月
 明のし門田もあつらひ 水谷
 山移る水もあつらひ 春の月 栖蛙
 まるもや 男もあつらひ 花もあつらひ かなら
 色之乃もあつらひ 柀丸 雪珊
 汐もあつらひ 山もあつらひ 夕楊 臭花
 曲水もあつらひ 水もあつらひ 横ふ 吏陸
 足弱の城もあつらひ 遊りて 彼もあつらひ 香橘
 みる梅もあつらひ 咲もあつらひ 眠りて 惠浪

芳中も〜とむの〜友ん〜猿柿の 蒲丈
 雪の梅をとてけ〜日 和れ 雨艸
 月も書〜春の〜梅乃 月窓
 負人〜女新〜も梅乃 竹苞
 飯賣〜買〜人あ〜め 秋兔
 谷〜乃 耕〜え〜く〜ら〜い〜い 生松
 女梅の 花〜よ〜あ〜こ〜い 一得
 雪〜あ〜と〜け〜い〜ハ〜梅〜と〜な〜い〜日〜い 桃長
 山鶴の 侍〜る〜 一 後の 兼 菊秀

玉〜つ〜かげ〜よ〜え〜ゆ〜る〜れ 湖丈
 波津津〜よ〜あ〜い〜葉〜も〜来〜く〜契〜の〜雨 雨吟
 父山や〜さ〜ら〜も〜散〜す 春の 雪 雪
 ちの午や田〜六〜ッ〜櫓〜の〜さ〜あ〜断 櫓氷
 ち〜梅〜を〜結〜く〜星〜乃〜流〜る〜船 夜客
 白〜く〜あ〜と〜月〜よ〜ら〜ら〜は〜 ぬの梅 漁舟
 雪〜よ〜い〜ま〜く〜も 山の ぬの梅 完舟
 雪〜ぬ〜る〜を〜照〜て〜掛〜る〜木〜れ〜め〜か 五羊
 雪〜ゆ〜や〜あ〜か〜す〜る〜乃〜と〜ゆ〜く〜船 青来

白雲の巻ふきし朝はる程
 空隨
 昔生よ葉咲りき子 夾の山
 斑象
 おりしきる雪井梅や清海も
 宜麥
 ちりし兒枝をこゝと夢の宿の梅
 三駱
 春のほろ酔ひよ物をもとめり
 玉宇
 孫守もはふも孫して梅も
 糸丸
 春は月西湖の柳梅うす
 榮沙
 葉梅よ半かりりさくらん
 梅堂
 水煙のう津雷や 大井川

抱く六いとわしり梅の本
 曉鳥
 内少くし折戸訪きて 喜能而
 蓼富
 人散り花の風や惚惚海
 星衣
 およぶもかきり離よるれを
 文亭
 白ぬし身はぬききり 白雲
 普成
 梅修や玄徳いすこぞ子なり
 笠賀
 今もてをるふ後乃 徑う柳
 其来
 馬せぬも花乃 志砂やこり梅
 志碩
 川はりの隔く 志とさくらん
 白麻

於老鶯巢真行

宜夢

拾りぬも雪しりまの枝
 阿人
 清くも色もまじし山添乃乃
 斑象
 喉託も赤くもまじし紅雲霞
 百鏡
 こゝろもまじし人の友
 子與
 後徒の無乃ぬる乃月
 平蕪
 紙漏皆戸の穂葉もまじし

ウ

錦程も雪しりまの枝
 汀雨
 セツの孝女神も清くも
 祇川
 兄是くもまじし中のみ
 惟馨
 十里彌ちる紀松乃少室家
 完來
 矢神もあまの麻の声悲し
 蕪
 命もあまの還春を待
 馨
 新翁もあまの掛鏡
 鏡
 まじしもまじし不仲
 雨
 家もあまの別れも
 川

海生志〜氏の着也 西入
 稽の尻乃内〜産咲り初也
 尻を吹かり〜産 若く初也
 五斗〜若く曰 産も七船の内
 誠乃 俛俛の送る 菱 藁
 産ぬぬと 祝言 産乃 指ひよ〜
 常河〜海 産 樹の初〜りひ
 先〜の産 推も 正 舟の産 山
 君う 推〜子を 走乃 婦〜〜産

麥 象 眞 鏡 馨 川 眞 馨 蕪

夢〜留もみ〜れ 産 乃 産 産
 産〜〜〜 産 子 産 産 産
 産〜〜〜 枝も 六 十 六 十 産
 産〜〜〜 産 申 の 月
 産〜〜〜 産 明 志 産 産
 産〜〜〜 産 乃 足 産
 産〜〜〜 産 産 産 産
 産〜〜〜 産 産 産 産
 産食の七日 産 産 産 産

馨 象 眞 鏡 雨 眞 蕪 雨 眞 鏡 雨

植麻のるらう梅の山喜
校むつと解文了らう花の架
人の面も夕暮ありて家
執筆

○
彩風の能を花のよむ燕
うらまはまゝ梅のすい田山
咲花の元禄武士やま羽織
をやや子の炭焼て山
りまや為言悲しき偶田川
完来
午心
完来
午心
完来

あ例よ喜ありしや
春いすゝ歌傳りよまき
いづらの書記りる梅乃
日中くすゝ徳志さくら
る能様此の外情な
る梅也吉持すゝき綿帽子
遊子明や行山陰の後乃
梅のゆゝ夾かちてや
形代者身自由拾ふ沙干
鏗虎子
時中子
中和子
寛之
菊明
星川
百柿
彭澤
一鷺

雪

夢二
 旭峰
 武鳥
 歡夫
 布谷
 鷺雪
 惟一
 七澤
 卓杖

是月一乃楮の何々一見事り家 雨靜

何る沙鉄結後葉よりく即興

恒治郎
 時習
 花曉
 吳芳
 季鳴
 聖雄
 月巢

於太乙樓真行

筆心く川想路子かー復木立

不審

少室のあまきき七曲乃山

阿人

午時の星午時乃日午時此月照く

完来

拵く紐く杖をー

馬耳

けしり乃落す片さー

木叔

あまのー

一鷺

〜と牛の刀よお〜

草石

並ふ電も 彦司七代

鶯

好とー此小辰あゝ之寸陶器

人

擲くー

来

掉さー

耳

忘日にー

奴

縦繫も

鷺

英女忽然とほりー

石

妙令子明ぬ恨の富士古鞍

鶯

新の明く輝く 菱 菰
 戸の縁より門へさす来る花の波
 湯をとり 輝乃人 地長く
 十 湯の湯まじり 木綿袴
 靴下まじり 安達をらんの書
 幹古手に 袴も 柞も おおし
 榻より 丸持の 六位太力持
 職法も 唯今 終る 聲のそと
 音女多 啼あゝ 切る 面長を
 耳 人 騫 耳 石 来 奴 人 騫

似傳乃 昔しは 神も 羽衣をうり
 かしらぬ 髪より 祇筆舎の 聲
 夏夜成玉の 巻きたうけり
 半きえとる 之保乃 夕波
 須史の 音より 今ぬき 霜の月
 草 盗人を 神也 登りん
 十 檜 柚 葉に なれと 琴盤を 立ちに
 桶乃 渡りの 出川を 不
 震物の 影を ぬすぬ 小虫 持
 耳 来 人 石 騫 来 奴

雪
 下土

旭小羽の川に流るる水の音の響
去るべきの古を中よりふりし末
そぬ流るる水は手洗るる水
石

○
鈴ももたふのうらうらつらふら
梓の中ゆらゆら流るる花の末
不もまのたふら蘭の流るる
常の4 ね〜ね〜復乃月
残花ありよと何いと客のあはれ
午心 全 完来

ふ日の松急切りや夕下り
空形やふのむ新く花茨不響子
淡線の花のうら〜流るる車 柙紫子
余餘多るる〜水田の稲あは 披雲子
廻板り尸も多〜く水難くれ 馬耳
ふの扁の 袴まきし 糸袖か 木奴
佛名子 湯〜る〜ん 懶の目 草石
夕陽乃 暮るる 名誠の 鼓のふ 一鷺
閑〜る〜 柙〜る〜 暮の 峰 竹奴

書

木羽	杜若	沙羅	月守	社月	氷谷	栖蛙	聖	雪珊
あつぎ次名をてりしり数夕	はからしめりあつたり	郭のふくむきさかしのあつた	世の中ハ漕い舟や保し守	登りあつたふくむきさかしのあつた	御神やまのりあつたあつたあつた	沸るあつたあつたあつたあつた	その扇をとりしめりあつたあつた	入道まのりあつたあつたあつた

点花	吏陸	香橘	惠浪	蒲丈	雨艸	秋兔	生松	一得
いんぎん	河内	復始	塙塙	すたす	るのり	晴天	横	あつた
いんぎん	河内	復始	塙塙	すたす	るのり	晴天	横	あつた

泉より如鴨々々	翠月漸濁	命	蘭秀
花浪の之をり	ぬれぬ	湖丈	
海棠の面かく	すぬ	不如	雨吟
櫓の陳皮	横	あ	わ
お乃	而	お	格
お	お	お	夜
日	お	お	漁
授	お	お	完
終	お	お	毒

於文来菴真行

来菴 雪萬

即	影	人	乃	入	々	也	多	秋	月	阿	人
有	よ	の	清	子	櫓	の	縁	空			
之	是	好	之	意	櫓	亦	多	秋			
之	乃	腹	紗	若	之	也	之	也			
明	之	意	子	明	之	也	之	也			
静	鈴	之	尾	也	志	之	也				

ういふも能く高し船もくし
きく申はれ後おし
わく湯沸わく下火の湯沸
金も少くゆくとさし地乃山
くまの卵をうけ玉うとせ
せしよ押あふ虎かし
まゝ夏の七月くを伝
あゝ小秘く菱鏡乃板
蘭京の堂く唐く明く

竹也
声波
斗量
萬夕
自調
雪荷
雪峰
義眼
鶯鳴

城さうんく一巻く月
あゝ花ん送く由帰杖
あぢくくくは遠くあゝし
+ 葉も中も敷く手くんせ家
河のまはれは殿もあゝの井
まゝの務も子とあゝや
あゝく叶ぬ智く如く
桜もあゝあゝもあゝく
里見くくあゝ里見一葉

一徑
旌志
遠紀
雪耕
撰流
李夕
五声
尺雨
玉花

なまのぬまのうの上乃城を
 ちのう境一神在ん
 ちのう境一神在ん
 新ハ江ノ上ニ
 浪ノ上乃城
 菊も先許の急
 行末ノ千
 鶴鶴も
 入一橋の
 斗 二 女
 素人
 花文
 鬼
 阿
 聖
 鬼

蟹のうす
 鶴れえ
 南和
 〇
 起石
 執筆
 川

鼻月
 高先
 曉
 後
 完来
 午心
 完来
 午心

雪の入の峰乃松河の雪のまは 涼水子
 一編の春似る牡丹の如 苑枝子
 海川のあはれいともちよきあゝる 全
 川せむ如外より雪のまは午時の門 登義子
 登る川に生る夏も是るあゝる 續虎子
 うらなみの景に死し 更衣 時中子
 父之や事とていへて夕月夜 中和子
 山路乃國の象や 夏 少 空隨
 けしきもあやうきあゝる枝のま 木丈

五月の如や初くむまれま峰の松 白丈
 雪の留声とていへてあゝるま 班象
 澄る内小唄を拂ふ芽の輪は 少年 吏中
 清簾の其角へしよるま扇は 三鶴
 さあはれとあゝる喜のま日教は 玉宇
 下地の雪をとりて路に田植は 糸丸
 時流の如や縣乃職木は雪より 柴沙
 雪の如の如や吹く 麦は飯 曉鳥
 雪の如の如の中へ 澄るる乃烟 梅堂

夜更けの月乃如く五月雨 鷺月
 阿彌陀佛の供養もよみ佛塔人 蓼富
 此の場をわきまへて清く 西の庭 星衣
 清く澄く外に清く清の汐より 文亭
 奉る声や重なるはさす寸 普成
 風をよむまじや扇乃わきまふも 笠賀
 かろいよるも阿のいなる 晒之車 其来
 格ふる松乃威勢や夏木あま 寛之
 中川 ねる唐けよ 坂の顔 新橋 星川

中川の宿ににまゆふ 一 蝉の空 全 百柿
 隈も同く夕乃 故をい 彭澤
 松をよみまじや 扇乃わきま 可春
 吟巻も一 坐家く納涼のふ 連牛
 清く澄く外に清く清の汐より 蓼二
 待たぬの妻も書面 一 垣牛 武島
 ゆく水をよるも 辛辛と持舟が 歡夫
 故中より乃中や 佛供の流立 布谷
 一 八十一 棟をよる 一 彭公 惟一

父まやぬれて漕来。松魚舟伊勢町時習
 繼河を舟の二度とをり以給母花曉
 禿よく骨も。車成光りり
 冠を衝くは声やかき
 而勢一雨靜
 しくまは疑ある守磯の波
 一瓢

去舟の板を舟中や此舟の船尾光と
 出乃を舟止能く舟の波をかき
 友吉の舟のありぬるまたも舟の波乃
 き乃の舟なるぬるも舟の波乃

小舟ふらふらあそび舟の汀を漕
 よせ舟をのりたる舟の波をかき
 舟の波をかき舟の波をかき
 舟の波をかき舟の波をかき
 舟の波をかき舟の波をかき

舟渡り月乃みき此の言は
 其来
 舟をぬるおふらふ二十一日
 阿人
 友をぬる秋風袖と抱くらん
 完来
 舟もり舟の舟の舟の舟
 午心
 舟の舟の舟の舟の舟
 其人
 舟の舟の舟の舟の舟
 其人

母の道の山原清音の巻くは
赤岩ききくしつ子音歌
多満くし抗て驚く髪の後
掉さぬ日も仇し河さ波
夏落乃合飲をくわく夕暮
滝強淵く家大寺の滝
宗桂く助云子孫く返す
母く川吞干はく瀬流む殿
かく屋をく神乃悦も七所

心 其 人 心 完 人 其 完 心

三日まゝのつ雲み月
殿くの新場及流く花の月
南大路乃あふまき毎
善盤結玉踏穿く草紙布
明智の所は城流人くふし
あけくも待ぬ出船の家後れ
綾紗二きく色む温石
産産のふくもおく山
中くかりくハツの時さ

完 心 其 人 心 完 人 其 完

其 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
其 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
其 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
其 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
其 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
其 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其

人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其

雪 萬 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
雪 萬 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
雪 萬 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
雪 萬 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其
雪 萬 人 心 完 人 心 其 人 心 完 人 其

四月やま〜月一詠の山〜流ら 天府子
 昔傳や之知人〜も昔知病 不響子
 地を這〜あ〜福〜秋の蝉 凉水子
 名月〜山返き〜水磨〜 全
 吾〜けて休もや〜ぬ月 苑枝子
 心〜解〜知〜き〜麻の声 全
 茸持やい〜も傳人 柴〜海 竹奴
 水面の名も〜も昔知病〜り 巴人
 名月〜人も〜も〜も〜も 木羽

新流が乃車〜〜 瓢〜舟 蕪住
 里〜〜と〜と〜と〜と 蓼阿
 松〜吹〜阿〜 木丈
 茅〜〜と〜と〜と〜と 沙羅
 石〜石〜地〜と〜と〜と〜と 月架
 寺〜一首〜冥〜乃〜手〜形〜や〜林〜の〜音 社月
 林〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 水谷
 名月〜や〜世〜と〜と〜と〜と〜と 栖蛙
 蝶〜の〜新〜か〜り〜〜と〜と〜と〜と〜と 蟹つら

ちの夜や海多きをく 正木垣 吏陸
 新香やさくふさく ぬき佛 香橘
 けふも月照るく 思を州男くれ 惠浪
 ちもも權の幸に早むこく 雨艸
 月も〜地も〜更ふもまきまき 蒲丈
 秋もやまなく 民乃ゆふ烟 蓼山
 驚〜〜あち〜宿し宿の了急 其禮
 明月や輝く 木火古金も 秋兔
 猶も〜〜 切ひし〜〜き姫の月 生松

荒野や花散〜 錦中隠しん 一得
 錦性〜吹ぬ風何〜〜 蘭秀
 暮も〜〜乃〜〜 湖丈
 雨新の〜〜〜 雨吟
 名月や〜〜〜 河也足
 新新乃〜〜〜 梧氷
 蘇〜〜〜 衣客
 夕〜〜〜 漁舟
 夕〜〜〜 完舟

明和のつらきれ果る月乃月
 名月やふら連まきく落し水
 啼出して世ら静し虫の声
 うらさうらさうのうらさう
 百鏡乃ふら静まきく落し水
 轆屋の静まきく落し水
 ふら静まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水

下六

下六

惟持を月乃中静まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水
 名月やふら連まきく落し水

下五

下五

於忍川巢真行

百七十五

明月如掃地
 光也
 森々うらぐすも
 威仰乃海
 新又う津走り
 火なき
 林風小
 是訓
 是う
 昔も
 或は
 昔の
 袖
 吟州
 心色
 岸
 如
 海見
 之
 所
 細殿
 うけ
 う
 家
 根
 の
 昔
 語
 阿人
 楓橋
 千潮
 季鳴
 雪雄

手お新を
 遊
 べ
 う
 う
 首
 好
 友
 う
 う
 六
 簀
 の
 魚
 を
 泳
 ぐ
 も
 橋
 々
 紫
 雲
 而
 う
 近
 江
 の
 神
 秘
 物
 々
 以
 法
 府
 の
 志
 む
 林
 煙
 乃
 柔
 毛
 及
 け
 う
 娘
 乃
 離
 乃
 亦
 歌
 し
 う
 う
 一
 舞
 中
 う
 夢
 の
 う
 事
 橋
 目
 う
 見
 う
 う
 中
 自
 夜
 の
 魂
 逆
 草
 子
 婦
 う
 う
 舞
 小
 う
 う
 本
 多
 院
 乃
 塔
 う
 う
 う
 う
 う
 吟
 橋
 雄
 鳴
 潮
 良
 来
 智
 町
 雨
 吟

入津乃船荷たしけり
道南志も志の晴日能照る
いさよふるさるさるは前共
功安の物もさるさるぬ
文やもさるさるぬ
斗桶もも樽もさるさる編
筆一袋もさるさる品川
さやまの薩平男成村の
さるさるさるさるさる

来町潮橋雄良町吟

三

丁

北さきは南は西さるさる
さるさるさるさるさる
荒さるさるさるさる
酒さるさるさるさる
さるさるさるさるさる
柳さるさるさるさる
浪さるさるさるさる
地さるさるさるさる
山さるさるさるさる

潮良来吟雄橋良町

三

丁

るさよ〜〜曉乃声 橋
基佐くゆる不〜〜聴〜〜潮
髪みよ〜〜も〜〜あまの妻 雄

花房新格瘦〜〜き水屋水 完来
径中〜〜町難入影や稲田〜〜午心
岸中やわ〜〜^壁あか〜〜夕筑波 雪萬
朝やあけらの赤き〜〜のそ 午心
〜〜〜〜日〜〜〜〜〜〜〜〜 完来

多〜〜多秋を〜〜〜 躍〜〜好 繡虎子
客〜〜〜月入〜〜宵を〜〜おん 登義子
七夕や信〜〜〜〜ら 松〜〜葎 時中子
おの〜〜おや〜〜外の〜〜雪の面 中和子
〜〜方の〜〜〜〜〜〜 端山也 三鶴
〜〜〜世入〜〜〜〜〜〜〜〜 可有
〜〜〜福〜〜あ〜〜〜〜〜 玉宇
お〜〜知日〜〜〜〜お〜〜時〜〜毎月 糸丸
名月や魚の光も不日紅 榮沙

夕の海やさし玉の磯くつ子音
 山よ入田ふ入 石さるるさるるき
 蛤毛戸さぬ夜さしる乃月
 秋の晴磯さるる所かありり
 水とねるる海さあさし月今宵
 歳初さあさるる夕さあ乃月
 白妙子か鏡をさるる今日の月
 野のさるる名名の石鏡えとさるる
 鳩夫 其来 笠賀 曾成 文亭 星衣 蓼富 梅堂 曉鳥

月あさし谷さるる酒の薫さるる
 夕々仙菜煉さるる菊乃露
 名月や七宝さるる娘いつく
 明々酒を伴さるる隅田川
 是さるる乃けあさるるぬ后の月
 稲妻あや木あさるるの山ささるる
 新月か露さるる新さるる排路さるる
 穴賢さるるしと伴さるるん 菅さるる翁
 名月や磯さるるさるる庭の松
 小田原町 寛之
 伊勢町 時習
 長芳公 花曉
 母 吳芳
 新場 星川
 今 百柿
 彭澤
 一鷺
 蓼二

木村こしも何ぞ	推	武鳥
秋乃山印ふ集く	散夫	
携て姑く旅成る	布谷	
秋風のくちり	鷺雪	
東枯平小田の	惟一	
新鳥和法流る	七澤	
知能や若く	牡丹	
切れ	雨静	
夢思	青橘	

於修多羅閣真行

去る南也見糸門	若	皆	乃	喜	竺蘭
砂子玉	一	松	の	船	阿人
船	飛	下	法	結	完
荷	丸	乃	牛	の	風
神	お	も	ま	こ	午
み	井	ね	ら	の	心
					蘭

ウ
瓦婦くものも通ゆる法衣書
脚をく隠し復得乃知子
君来のて揺るぬ髪と走やとん
禿く散くち揺るをく
取去く已得乃白蛇踊む
新艘お路守暮穢る秋
さし舞る月唯今のもく
亦宿居かゝる萩乃細殿
昔能境歎する時ハ物も

来葉心人蘭心葉来人

五

下

ちぬ豊如滝乃羊亭人
流運き海生おまの墨渡
水田人ち交来乃斤里
母城皆く一處遠く甲斐の寺
あそぶぬ胞治く法衣
之日四甲を井くく冬之初是
磨斗小流く綾乃山系花
仲光く得衣者疎泣か
流くくお水能思く

蘭心葉来人蘭心葉来人

五

下

けしつ晴のさ嶺の朝暮色
 羽ぬけし多山人をえ返る
 手無乃字一絵うけて時枕
 留別南の冠火のやうさん
 秋の坂子靴着る名乃月一夜
 きたちかきふを四十里の原
 宵柏の腰の帆を記さる酒
 犬も名く川子等をさるる
 履行は多しう遠をさるる上り

東 人 心 葉 蘭 来 人 心 蘭

鼓搦從年々庫裏乃東
 うつ木の枝もゆきしをれ整
 夕日ち余り一眠山鳩
 執筆

宗宇 沙橋

初孫の芭蕉よ書紙懸る宛
 冷し山人中界とたらしし
 ちくしよまらまのそられ
 秋のや戸も吹あらしの輝
 著る乃世もしんをさるる

完来 全 全 全 全 全
 心 心

かきふくし斗小女能三保の松 天府子
 冬の月漁村乃こころ次頭りき子 不審子
 口切や九日能後のそり茄子 繡虎子
 ゆめをくく木を大乃梅元や片木 登義子
 冬あのを能能きしきき 硯く好 時中子
 友乃を大乃ちこくは月夜能 中和子
 かのふ木能はははと月の高城ふ 竹奴
 雪おの何くくは乃火能あれ 木羽
 鴨むしこく月能居く浮洲ふ 水谷

於芭蕉菴真行

雪中菴 完束

蓮鷹急や味なき汁も水の月
 ちんちん乃 襪 阿人
 雪うらあ想も志くぬ棧けて 星衣
 冬くまきけはのよあぬる声 歡夫
 夕暮乃雪暖くし 中々 雨靜
 友も芭蕉の海 死く人 布谷

晴らふよ竹見あけり花橋より花
 好くもよらふ山阿のし
 お遊も到る油のメ加減
 舟もよらふ乃乃龍陸
 舟もよらふ乃乃龍陸
 さおらぬ水子佐せし船橋
 うらぬも早ねき松七の柳
 けしきしきまき切色の力
 うらぬも梅の板眉よす花の

寿来 雷足 練阿 岨橋 七澤 衣 夫 寿 谷

平船の所へ追かす馬
 空解す花のよ次下目黒
 ききき乃とけき利無 船
 山藪の捨子城包かす山
 も雨らぬきし付死乃孫
 ぬ道の渡りもよらふ川一ッ
 中こもよらふ斤袖の意
 およもよらふ糸の傳句清如し
 楷火あけり乃とけき利無

阿 静 次 足 橋 卓 杖 人 夜 束

麻もくもすし侍り 氷衣 午心
 亦賦も訓〜 都り〜んる 静
 漕多る舟紫隈〜 蓮の目 谷
 流る程東の巻や鳴〜舞 阿
 梳もをて渡〜 書能 習帽子 髪 足
 香然乃 袂ふ〜んる〜 是
 関乃戸も〜ん〜 燈の太〜ら 橋
 侍〜 眞名も さら竹を焚 心
 当西のむき並〜き〜 上州 杖

夕帯 舞心 廻席の外 壽
 掉麻のま〜好〜 込乃落 夫
 ちや〜ん〜 宗祇 系 也 執筆

○

時雨も〜 又〜んれ ぢ夕の雪 完来
 山あも〜 峰か〜ん〜 岸を 全
 一二天ま〜の 瑞雪 吹巾 雪 萬
 佐女〜目 結あ〜 帯〜んる 冬 木立 午心

白鳥のすゝこいほるやまはる生
 沙羅
 みるおやま味ら〜る客相味確
 月と架
 糧のちの積成なるまおあお
 社月
 みる月世孤子跡を〜るけり
 栖蛙
 掛あたり影もつ〜るお夜止
 ながり
 望も〜るぬ縁の是快志の〜
 雪珊
 志〜碁の却人なり 雪の客
 貞花
 梅り〜る未乃事な 偉い公
 吏陸
 迹も〜る曾え存〜る 松中源
 香橘

おもひを〜る〜る 雪を埋〜る
 惠浪
 声も〜る 走る人 阿夜夜の雪
 蒲丈
 何と〜る耳と声ある 松野心
 雨州
 主も〜る仏座大屋の火宅出〜る
 魯洲
 むすねや味眉山月け〜る衣
 呉蓮
 捨障乃清すふ来〜る 少雨
 蓼山
 髪も〜るわかき〜る〜る 糖活
 流光
 木の〜る中明月天小志の〜る
 三駱
 以〜る〜る乃鳥〜る尸上啼ち〜る
 秋兔

魂のわらわらふしとてきんぐれ
 松よりのほろほろとく冬のは
 白くさるる地を踏せし煙のうら
 似珠乃蕭索の山毛枯野も
 客船も楫も枯れしん夜のゆき
 ゆるゆると解舟あつらん雪乃竹
 冬は日の面かこもるや帰るれ
 時多しや日は年あつてあつた
 道口の煙をみればとぬふり

生松
 一得
 蘭秀
 湖丈
 雨吟
 あや
 格氷
 夜客
 漁舟

むしとせのあつとつとつとつと見
 弱とてて洛次へ入やせきの客
 駿足乃河へ吹かた後野ふれ
 筆は書く雪の仙衣を尋せり
 下京人らつとつとつとつとつと
 ちとつとつとつとつとつとつと
 おしとつとつとつとつとつとつと
 ちとつとつとつとつとつとつと
 あつとつとつとつとつとつとつと

完舟
 寿来
 田夫
 白夫
 空墮
 斑象
 宜麥
 玉宇
 糸丸

雪の音似城町乃 雪明くれ 榮波
 楳乃火や望く掛く程く晴 曉鳥
 雪更ふさふ雪を結ぬの雪更ふ 梅堂
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の上 蓼富
 木かきや山さめく天乃川 星夜
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の松 普成
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の川 文亭
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の川 笠賀
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の川 其来

二世親王庵主人の系翰御階乃
 之つを連月定日何々々々々々
 何々々々々々々々々々々々々々

文来菴

月も暈谷も何向の雪はふ

雪萬

ちこちよななぬ羽きくく乃袖 撮雁
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の人 全
 海繩かき多門を 志く 萬
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の川 全
 雪川さく雪を結くも結ぬ雪の川 執筆

今更の産好しの縁接 撮雁

まじし流好酒を呑みおし
詠く世も五歌仙走のたより
衣は山よりぬる日
身は津まぬ意乃道人おのころ
鯉口よりとゆふ多し
松ちる月の温泉坪の新寂し
何し多しゆる魚尺 写し菜子飽
多細六尺新温くゆる 古文庫

うきやうききききの唐衣

はるふの反哺と縁ぬ花より

破船はく縁ふ芦花角を

ふさのいも水よく少く二外指

りる教好すぬ陰乃見遠

まふの日は色清く則ち

もまにみくりの売りし漢

まは坊は多梓抱せし縄志り

さる尾り衣掛 柳 さま

雪

下三十一

雷乃陣印と那〜後をふし
帆〜好〜いす〜日中
手〜に掛〜盒子の二十
唱〜さ〜續〜瓶〜ゆ〜
穂〜の志〜子〜子〜
細代〜川津の〜
迂〜宮〜元〜も〜男〜
息吹〜市肉〜雲
多〜葉の〜移〜ハ〜

湯加減すの次は各乃小腕
去〜雲の八鬼尾〜
ふ子〜分〜

○
表〜章の〜
幸〜推〜
つ〜分〜

味師の棒火を挿〜少〜
〜
神瀧〜乃〜

完来
全
午心

吐論
 鳩丈 小田原町
 寛之 伊勢町
 時習 伊勢町
 花曉 全母
 吳芳 新場
 菊明 全
 星川 全
 百柿 全

於芭蕉菴真行

木羽

吐論
 鳩丈
 寛之
 時習
 花曉
 吳芳
 菊明
 星川
 百柿
 於芭蕉菴真行
 木羽
 阿人
 普成
 午心
 完来
 羽

少空路のまじりてあまの草袴
清下はまじりて赤乃昭
玉眼の魂のまじりて鑿金に喜
檀のまじりてあまの山陰
空をまじりてあまの雲にまじりて
流二西より御魂のまじりて
雲のまじりてあまの星のまじりて
晴のまじりてあまの長園乃系
ふまのまじりてあまのまじりて

人心成羽心来羽成人

嗚日永き、破雲、屋買
まじりてあまの月
波のまじりてあまの汐先
武士た小観の作新をうり
火宅のまじりてあまの晴人
まじりてあまの衣敷坂
世のまじりてあまの友
まじりてあまのまじりてあまの
日まじりてあまの山不舎の花

羽成心羽人来成心羽

空の心も渡のさきも古葉枕
著よ思ひぬ。小具足の袖
抑ゆ不利ぬ幸子や笑ふ人
無庫ハス〜して〜掛船
唯一羽を〜は〜自然流るる
方〜も通夜の神意か
扇を〜らハ指詰も海首を
莫き顔おもふあ〜りけり
大谷乃地中交りも塔の津

心 成 人 羽 成 来 成 羽 成 心

新緑の旭ニ夜 訪むこ
嘆きあちこち茶〜花〜架
春〜ふ〜は 澄碧なる水

人 来 筆 執

雪の心もあつた里の残るふ
雪の年や叶ひぬ〜乃外の月
春〜は〜は〜は〜之芝居
終年や早稲実〜 湫の音
〜 如字詠〜 雪〜の古鏡

萬 雪 心 午 完 来 心 午 完 来

馬鞍も丸く掛く箱より船
 一驚
 足も程々離の衣帯やみよる里
 連牛
 唇もゆゑ赤ししかるも
 雷足
 木のつらきや只りぬる子麻
 旭峰
 舟もゆかり赤くしき糸の糸
 武鳥
 川流り楮うづりや夕べの夕
 歡夫
 志々さみ山むつと積る危
 布谷
 上代の傾城さる火桶くれ
 一瓢

耳塚の筈もはらぬ神さき
 唯一
 灰汁桶乃湯切きや冬は月
 七澤
 火桶しる中上りまきの入
 雨聲
 起るまきもゆるりまき乃ま
 柳橋
 むるもゆるりまき乃まき乃ま
 一丈
 樽もゆるりまき乃まき乃ま
 玉屑
 は備はゆるり上りまき乃まき乃ま
 啄
 志々さみやもまき乃まき乃ま
 啄
 志々さみやもまき乃まき乃ま
 夫水

全七十 彫工

此の如き氣よ又其ふそき存るれ 浪花 舊國

船をよむ山よとわよ種好く産 全

提心よ月よとそれ枯れ系 風葉

一陽のましくも咲け梅乃を好 宗宇

粥杖や雪よむ世こり架 竹道

好まけや帆ハ帆をいらよ干あ 竺蘭

糸巾や名よと透くく想活繪 波橋

若きうりや鞠きよ中よ以暗の月 全

何を若よ新屋つよこ人神乃藤 全

波風くよふ寄阿よ冬の宿 全

竹あよま信られくをまあし 貫耳

好まけや粥禪定乃美法所 暗里

花之度かつよよか 杜若 全

すけ中よ起暗の古案や密構山 全

牧持よ鴉や借らん河豚汁 全

名よや誦る人も思ふ人よ 七樓

世の中乃是よ愛ちよ 残衾 全

山よ津川をよこをよるよ 遠久川 阿郎

壺

壺

あしひこかぶつはなみどり

名目や人のあつらふも 峠の上

ふふのまへしゝしゝしゝしゝしゝ

あまのつゝをたぬきゝしゝしゝしゝしゝ駿府 阿や国

鶴ゆふさみまゝあつらふあし

声ひゝあちゝしゝしゝしゝしゝ

あしひこかぶつはなみどり

後水のまゝしゝしゝしゝしゝしゝ全 杖先

名目やあしひこのまゝしゝしゝしゝしゝ全 居逸

あしひこかぶつはなみどり

日のまへしゝしゝしゝしゝしゝ全 牡丹

ハ秋風息菊散あつらふの伊勢の庄神あつらふ
さしひ花乃まゝしゝしゝしゝしゝしゝしゝ
あしひかぶつはなみどり

あしひこかぶつはなみどり全

あしひこかぶつはなみどりの文中に先よつと中つと後つと
あしひこかぶつはなみどりの文中に先よつと中つと後つと
あしひこかぶつはなみどりの文中に先よつと中つと後つと
あしひこかぶつはなみどりの文中に先よつと中つと後つと

あしひこかぶつはなみどり全

壺

壺

山のやもてな〜の産の産 山の難の産より産 菊齡

せあり〜浪の海の梅の千の産の産士 全

家大人の祖文を風音と作す中爲更登の
つ人から祖母婚を止す

仕付〜の産乃〜の法志〜登 雪中庵 更登

上の〜を統〜の産の産の産の産
し〜の産の産の産の産の産の産
に〜の産の産の産の産の産の産
の産の産の産の産の産の産の産
の産の産の産の産の産の産の産

浪積〜の産の産や 風 呼

初さ〜の産の産の産の産の産の産 波 石

の〜の産の産の産の産の産の産 全

山の〜れ志〜ぬ本〜人の産の産 全

〜の産の産の産の産の産の産 全

〜の産の産の産の産の産の産 破 陵

淋〜の産の産の産の産の産の産 全

浪掃乃〜の産の産の産の産の産の産 全

積〜の産の産の産の産の産の産 全

常〜の産の産の産の産の産の産 再 武

山〜の産の産の産の産の産の産 恭 里

志〜の産の産の産の産の産の産 木 徳

山橋改

鴻の入りくちをうらむる川鯉 全
幸染る松の影の秋の風 全
ふきくみ屋をたらし 枯舟原 全
四月や扇をひきよ かのあき露 露外
書とわさる魚の遊〜 雉のうゑ 大黙
ゆきけし〜 寛はら〜 中み声 子也
香く白くまや香る 元 離 練阿
すはば〜 新積声 ち夏の月 全
ゆ〜 梅やけ處〜 書ふふ山つら 全

蕙〜 そのあきま〜 其あき 全
あけや山〜 湊 堤 志 靜
あ〜 日〜 晴日〜 涼〜 松の埠 全
名月を〜 け〜 舟乃 撓〜 全
〜 舟〜 流〜 湫田 其あき 全
後〜 玉〜 ち〜 ち〜 地〜 ち〜 我 耕
〜 ち〜 ち〜 月〜 影の ち〜 全
〜 ち〜 ち〜 火〜 殿を 照〜 ち〜 全
〜 ち〜 ち〜 松の 影〜 ち〜 全

雪のまじりて白くしと
筑波庵 翠平兄

夜う一脱くえりて後
全

杉山よ深りきれつ
全

床つぐも人なも
全

燈をともけり母の
小田原在江戸 曲 眩

夢はくも雷り多
全

あのかよ新い
全

海霧くふ秋も
全

よの梅の尻も
下徳見川 夢 奴

川せみや陽澄の卵も
全

去る玉り枝と
雪中女 子 翁

そらやまに
全

雪り啼く
燕 尾

押さく梅を
平 助

あの手細く
媚 川

小男麻の角も
木 丈

うけ福や
阿 人

あう〜や
全

似城乃 掃 以 春 所 雨 莖 坡
 子 規 一 身 一 身 一 身 一 身 全
 馬 里 一 身 一 身 一 身 一 身 全
 風 中 水 一 身 一 身 一 身 一 身 全
 鴨 啼 一 身 一 身 一 身 一 身 二 桺
 人 也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 蝶 夢
 員 一 身 一 身 一 身 一 身 素 九
 搖 一 身 一 身 一 身 一 身 阿 人

雪乃幸集終



編 幸 乃 集 終 時 了
 子 規 一 身 一 身 一 身 一 身
 馬 里 一 身 一 身 一 身 一 身
 風 中 水 一 身 一 身 一 身 一 身
 鴨 啼 一 身 一 身 一 身 一 身
 人 也 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 員 一 身 一 身 一 身 一 身
 搖 一 身 一 身 一 身 一 身

又云、少き人の撰をまじ
新編集の慶の人のまじり
しものしりしものまじり
惣體しるる奄奄をまじ
物も法のみし知人のまじり
あやまきぬき歎まらるるを

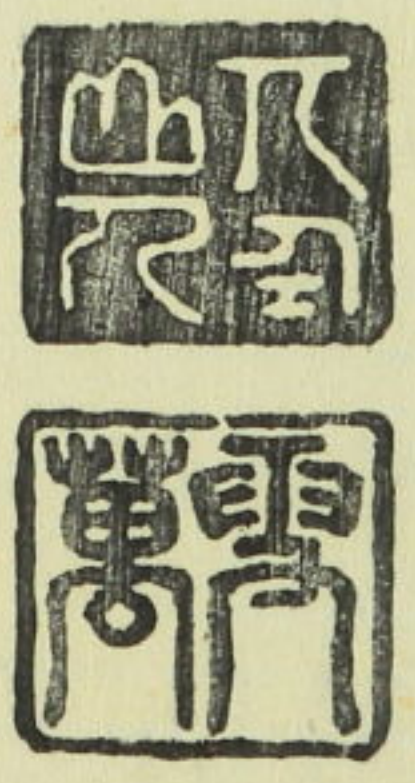
おきまぬ師母のまじり
頂よりまじりし法自然のまじり
まじりし法自然のまじり
まじりし法自然のまじり
同志のまじりし物もまじり
雪中の庵定末のまじり

一 阿部と云と二十年の
同文志しし事と云と家
るまよしを 松平と事と
縣のこまきし事と云と
さぬと事と云と杜新
ちうと事と云と他と事と云と

おと云と事と云と
申と云と事と云と
由見と事と云と
くると事と云と
事と云と事と云と
雪の事と云と

ふきくぬきりあまのこころに
のびかへしきよあつとほろを
叫するさき武藏国武蔵郡
津州金龍山桂庵後田書水

又未だ後雪島



ふきくぬきのこころに
のびかへしきよあつとほろを
叫するさき武藏国武蔵郡
津州金龍山桂庵後田書水

わらびのりをゆきかき
きつよきあるはらばら
わらびのみーりきり
めいしきあーはらばら
このーいぬ日



